

兵庫教育



特集 子どもたちが変わった!
—「総合的な学習の時間」
から何が見える—

2002
No. 613 **3**月号

平成18年開催 のじく兵庫国体
相撲競技会場
—ありがとう ひかり・ひょうごから—

「総合的な学習の時間」のテーマとしての 現行の教育の再定義と活性化について



須磨学園高等学校長

にし かず ひこ
西 和 彦

「総合的な学習の時間」のテーマとして学習指導要領には、「国際理解」「情報」「環境」「福祉」「健康」が示されている。今までの教育課程になかったテーマとして上記のテーマはそれぞれ、大きな意味を持つものである。しかし、週に数時間という範囲で小・中学生に国際理解を教えることができるのであろうか。「環境」を教えることができるのであろうか。

「情報」については情報科目の中にゆくゆくは吸収されていくであろうし、「福祉・健康」については現行の保健体育科目に吸収されていくものとなるであろう。そうすると、この総合的な学習の時間は新しい科目の受け皿の時間として位置付けられるものになる。この多様性については、「総合的な学習の時間」応援団の頁 (http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/sougou/index.htm) に集大成がされていて、大変興味深い。このように広い分野にわたる教材が短期間のうちに整備されたこ

とは、教育現場の自主的な創造性が発揮されたものであり、興味深い。

私は、この新しい「総合的な学習の時間」について、この時間内で何を行うのかどうか、ということだけでなく、残りの学校教育活動のすべてと連動した新しい取組の姿勢が同時に必要ではないかと考えている。総合的な教育的結果をよりよく導くために、それぞれの教科の調整に「総合的な学習の時間」を使ってもよいのではないだろうか。

考えられるテーマは、① IT 教育の再定義、② LT 教育の枠組み作り、③教科とクラブ活動の教育的な関係付けなどである。

1 「IT 教育」インターネットの全教科への応用

高等学校において「情報」が教科になり、コンピュータやインターネットの仕組みや使い方が正課として導入されることになっている。情報教員の資格習得も着々と進んでいる。コンピュータの理解はもちろんであるが、それらは現在考えられている方向で対応が終わっている。しかし、これからの「IT 教育」の大きな課題は、この道具としてのコンピュータやインターネットをどう使いこなしてそれぞれの教科に生かしていくのかということであろう。

インターネットを使った数学、理科、地理や、歴史は

どのような教科になるのであろうか。その方向性については授業時間中に試行錯誤するより、インターネットの創造的な活用法についてはクラブ活動でいろいろと開発することができるのではないかと考えている。そうすることによって、楽しく学ぶことができるようになり、教育的には大きなインセンティブとなる。

各教科を好きになるきっかけとして、「楽しく学ぶ」ということは、これからの大きなテーマである。かつて数千万円かかった初期のコンピュータグラフィックスシミュレーションのクオリティーをはるかにしのぐ複雑なモデルが次々と登場している。たかがテレビゲームと大人があなどっているうちに、本質的にはコンピュータが専門の大人が戸惑うような問題を小学生や中学生がどんどん解いていく。これはそのテーマが好きだからこそ積極的に学習していくからである。



2 「LT 教育」生徒会活動の新しい位置付け

私は生徒会活動を新しくリーダーシップ教育「L教育」と位置付けて取り組んでいきたいと考えている。リーダーとして生徒会の役員になることができるのはほんの一握りの生徒であるが、役員ではない生徒も参加できる切り口として、チームワーク教育「T教育」も同時に考え、全員参加の枠組みを作っていかなければならない。リーダーシップとチームワークを実践的に行う場として、各

種の運動に対する取組や、全校行事や全校集会の実施などが考えられる。

実際に企業で現場の最前線において、仕事に向かって、集団において抜群の指導性を発揮する企業人の多くは、中学校・高等学校において生徒会の役員であったり、文化祭や体育祭の運営に携わった経験を持つ生徒であったりするという例が私の知る限り大変多い。

3 教科とクラブ活動の一貫性のつなぎとして

私は、「総合的な学習の時間」を各教科と文化部、運動部などの課外活動との調整の時間に充てるのはどうかと考えている。

国語 文芸部

英語 ESS

数学 数学研究会

理科 物理部／科学部／天文部

地歴公民 社会研究部

情報 コンピュータ部

家庭 被服部／調理部

芸術 美術部／吹奏楽部／書道部

保健体育 すべての運動部

以上のように、実は授業科目と課外活動はみごとに一対一対応するのである。

4 全員クラブ活動参加の是非

全員クラブ活動参加という方針が打ち出されたときがあったが、学校の設備やクラブの指導者の負荷という問題があり、中学校においては難しいものがあった。高等学校においては、塾や予備校、アルバイトや家の手伝いなどの理由で課外活動が制限されることがある。

しかし、やむを得ない理由を除いては、全員参加のクラブ活動を推進していきたいと考えている。ここで重要なことは、クラブ活動については生徒の自主的・自発的な意思によって参加、非参加が決められるべきであり、学期途中の参加クラブの変更については比較的柔軟に対応する必要がある。この条件さえ満たすならば、「吹きこぼれ」対策や、「自発的な学習」については、かなりの結果が期待できるのではないであろうか。



5 好きなことを学ぶからこそ伸びる勉強

私の中学高校時代を振り返ってみると、中学の放送部の同級生は、そろって電気関係の仕事に就いていて、高校の物理部の同級生は大学の教員や企業の研究職に就いている。それぞれの分野が好きで好きでたまらなかった学生が、授業ではもちろんよい成績をあげながら、中学においては高校レベルの内容を、高校においては大学や大学院レベルの内容を教科担当の教師から楽しく教えてもらっていたのである。

「落ちこぼれ」ということが大きな問題になっているが、同時に国際的な競争力を考えると、「吹きこぼれ」（できすぎて浮き上がってしまう生徒）の芽を摘まないで、どう伸ばしていくのかを真剣に考えなければならないときに来ているのではないだろうか。「吹きこぼれ」の話をする、一部のよくできる生徒の話や例外的な場合のことと考えられ、「西先生ご自身も、よくできた生徒で、特別なケースですよ。」と、一言のもとに片付けられて終わっていたが、決してこの問題は一部の問題ではない。

誰にでも得意不得意、好き嫌いはある。好きな科目は勉強すればどんどん伸びる。逆に、嫌いな科目は勉強しないのでそれほど伸びない。もし、伸びる可能性があるならば、おもいきり伸ばすことを試してみるのもよいのではないかと思う。

多くの大学受験シフトを敷いている進学高校において「総合的な学習の時間」は、水曜日の午後や土曜日などに押し込まれ、不定期に行われる行事により「総合的な学習の時間」授業の実施が不可能になりがちであるが、特に私立学校においては学校間の教育方針の違いをいかに実現し、私学としての特色をどう出していくのか、ということがこの「総合的な学習の時間」の扱いにかかっているといってもよいのではないだろうか。